

Parrish の学習経験の質モデルの学習者要因に着目した 学習経験自己評価表の開発

Development of a self-assessment sheet for learning experiences focusing on the learner factors of
Parrish's quality model of learning experiences

仲道 雅輝^{***} 根本 淳子^{**} 竹岡 篤永^{***} 高橋 暁子^{****} 鈴木 克明^{*}

Masaki NAKAMICHI Junko NEMOTO Atsue TAKEOKA Akiko TAKAHASHI
Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院教授システム学専攻^{*}, 愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室^{**}

高知大学大学教育創造センター^{***}, 徳島大学総合教育センター^{****}

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University^{*}

Center for Information Technology, Instructional Design Office, Ehime University^{**}

Center for Higher Education Development, Kochi University^{***}

Center of University Education, Tokushima University^{****}

E-mail: nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

<あらまし> 本研究は、パリッシュの「学習経験の質モデル」にある「学習者要因」に着目し、筆者らが携わっている初年次教育の中で、学生が主体的に学ぶための学習姿勢を身につけ、その後の学習効果が高まることを目指し、初年次教育において学生が自らの学習姿勢を自己評価するための「学習経験自己評価表」の開発を目的としている。本発表では、学習経験自己評価表の第一次案の開発と実際に初年次教育の授業実施前後で調査した結果を報告する。

<キーワード> 高等教育, 学習経験の質, 学習者要因, 初年次教育

1. はじめに

筆者らは、学習者の学ぶ姿勢を育成するために、平成24年より調査(仲道・鈴木, 2012)を実施してきた。本研究では、学習者の学習経験に着目したパリッシュ(Parrish & Wilson, 2008)の「学習経験の質を左右する要因」についてのモデル(以下、学習経験の質モデル)にある「学習者要因」(表1)に焦点をあて、筆者らが携わっている初年次教育の中で、学生自身が主体的に学ぶための学習姿勢を身につけ、その後の学習効果高められるようになることを目指した学習経験自己評価表を開発し、その第一案を報告する。

表1 4つの学習者要因

意図(Intent) 個人の学習目的や興味のほか、価値・期待・嗜好・自らが置かれていると思う立場の認識などを含む広範なもの。

プレゼンス(Presence) 心身ともにそこにいることで関与が始まり、他者への共感と積極的貢献によって学びを可能にする。率直な思いや感情を表出し、自分に学ぶ必要があることを認める。

開放性(Openness) 個人の信念は守りつつも、変化を拒まない気持ち。弱さではなく強さを示すものであり、状況に投頭するには必須の要素となる。

信頼感(Trust) 良い結果となることを信頼し、困難な状況や直近の報酬がなくても、期待感をもって辛抱強く関与し続けられること。結果が期待通りでなかったとしても、寛容の心を持ち、状況が修復できることをも信じること。

(Parrish & Wilson, 2008)

2. 方法

学習経験自己評価表の第一次案を以下の手順で作成し、筆者の担当する授業で調査を行った。

2.1 学習経験に関する学生へのインタビュー

学生の学習経験をもとに項目を構成すること

で、より実際の評価しやすいものになると考え、インタビューを実施した。対象は、前年度の新入生セミナーで、筆者の担当科目を受講した学生で、同意の得られた4名で、方法は半構造化インタビューとした(120分)。インタビュー項目は、4要因で設定し、自分の学習姿勢に影響したと思う授業や教員のかかわりについて、具体的に話してもらうよう聴き取りを行った。音声データから、逐語録を作成し、意味のある文節で区切り、類似するものをまとめ、学習姿勢を示すものを選び、評価項目案を作成した。

2.2 教員が学習者要因に影響すると考える項目

自己評価表を作成するにあたり、学生が認識している項目のみで構成した場合、学習姿勢の習得を支援するツールとしては不十分である。そのため、教員が学習経験の質を高めると考える学習姿勢を追加した。方法は、以下のとおりである。

筆者らは、長年初年次教育に携わる教員(1名)に対する半構造化インタビューにより、学習経験の質を高める教育実践を調査し、「学習経験の質を高める授業改善ヒント集」を作成した(仲道・根本, 2016)。このヒント項目から、教員が学生に身につけてほしいと考えている学習姿勢を示す項目を抽出した。ヒント集には、学習姿勢を示す項目以外に、授業方法の具体的な工夫(グループワークではメンバーに多様性をもたせるなど)および、教員自身の姿勢(できていることを褒めるなど)があり、それらは除外した。

2.3 自己評価表第一次案項目の決定

学生の項目と教員の項目を合わせ、重複を整理

し、計30項目を決定した。自己評価表第一次案は、項目に、そう思う・ややそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・そう思わないで回答する5件法とした。

2.4 自己評価表第一次案を用いた調査

調査は、2016年度新入生セミナー(ノートの取り方などのスタディ・スキルズを中心とした科目)で、筆者が担当する科目(6回)を受講した学生に対して、授業の最初(授業前)と最後(授業後)に実施し、学習者要因得点の変化を比較することで、初年次教育の学習者要因への影響を観察することを目的として実施した(対応のないt検定、有意水準5%)。

3. 結果

第一次案を用いた学習者要因得点を比較したところ、授業前後で6つの学習姿勢が変化した。

3.1 授業前後での比較

対象者数は291名、回収率は授業前95.9%(有効回答数267)、授業後92.8%(有効回答数256)であった。無回答の項目がある回答は分析から除外した。

授業後に有意に上昇した項目は「学生同士で教え合うようにしている」、「授業で自分に何が身につくのかをわかった上で受けている」の2項目であった。低下したのは「専門分野に関連する科目かどうかを考えながら授業を受けている」、「授業でのグループワークは友人をつくるよい機会になる」、「授業から何かを学び取りたいと思っている」、「何か新しいことが学べるのではないかと受けて授業を受けている」の4項目であった(表2)。

4. 考察と今後の展望

授業後に上昇した「学生同士で教え合うように

している」は、授業回を重ねる中で、共に学ぶ姿勢が身についたこと、「授業で自分に何が身につくのかをわかった上で受けている」では、授業目標が理解できるようになったことを示唆している。授業後に低下した「専門分野に関連する科目かどうかを考えながら授業を受けている」、「授業から何かを学び取りたいと思っている」、「何か新しいことが学べるのではないかと受けて授業を受けている」については、基礎的であるからこそ、どの専門分野とも関連すること、知っているとは早合点することで新しく学ぶべきことに気付いていないなど、新たな気持ちで学ぶ姿勢が身につくような授業の工夫が必要といえる。「授業でのグループワークは友人をつくるよい機会になる」が低下したのは、この授業が座席指定であったことが一因と推察できる。

今後、他の科目での検証や、回答した学生への聴き取り調査など、さらに使いやすい自己評価表の作成に向けて改訂を進める。

謝辞

本研究はJSPS科研費15K01027の助成を受けたものである。

参考文献

仲道雅輝, 鈴木 克明 (2012) バリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育(新入生セミナー)の効果検証, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, 279-280.

Parrish P. and Wilson B.G. (2008): "A design and research framework for learning experience", A paper presented at the 31st Annual Convention of the AECT, Orlando, FL. [Available online] http://www.aect.org/pdf/proceedings_08/2008I/08_18.pdf (2016.07.04)

仲道雅輝, 根本淳子 (2016) バリッシュの学習者要因に着目した授業改善ヒント集の開発—初年次教育での学ぶ姿勢の育成, 初年次教育学会第9回大会発表論文集(印刷中)

表2 学習者要因項目得点の授業前後での比較

	項目	授業前		授業後		t値	有意確率
		平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)		
意図	1-1 授業の内容は将来必要だと思って学んでいる	3.88 (0.85)	3.92 (0.80)	-0.519	0.604		
	1-2 自分が学びたいことは何かを考えながら授業を受けている	3.90 (0.76)	3.85 (0.77)	0.755	0.451		
	1-3 自分の学び方や考え方について振り返ることは大切だと思う	4.18 (0.77)	4.18 (0.73)	0.06	0.962		
	1-4 学校の活動にも積極的に参加しようと思う	3.57 (1.03)	3.50 (0.99)	-0.232	0.817		
	1-5 専門分野に関連する科目かどうかを考えながら授業を受けている	3.87 (0.91)	3.69 (0.93)	2.248	0.025 *		
	1-6 他の科目との関連を意識しながら授業を受けている	3.37 (0.96)	3.46 (0.88)	-1.158	0.247		
	1-7 授業で自分にとって印象的な忘れられない学びがあった	3.31 (1.07)	3.42 (1.08)	-1.098	0.273		
	1-8 これまでに学んだことを思い出しながら授業を受けている	3.78 (0.79)	3.75 (0.77)	0.422	0.673		
プロセス	2-1 自分が学ぶ必要があることは何かを考えながら授業を受けている	3.78 (0.88)	3.85 (0.75)	-1.054	0.293		
	2-2 他の学生と考え方や意見を交換する機会を大切にしている	4.02 (0.87)	4.04 (0.77)	-0.283	0.777		
	2-3 授業でのグループワークは友人をつくるよい機会になる	4.12 (0.89)	3.92 (1.05)	2.276	0.023 *		
	2-4 いろいろな個性をもつメンバーとも協力して課題に取り組むことができる	3.79 (0.90)	3.80 (0.86)	-0.037	0.971		
	2-5 学生同士で教え合うようにしている	3.25 (0.99)	3.54 (0.96)	-3.265	0.001 *		
開放性	3-1 授業から何かを学び取りたいと思っている	4.39 (0.67)	4.26 (0.65)	2.386	0.017 *		
	3-2 自分の意見を相手に伝えることは大切だと思う	4.57 (0.61)	4.50 (0.58)	1.246	0.213		
	3-3 わからないことがあったら少しくらい恥ずかしくても質問したいと思っている	3.66 (0.93)	3.57 (0.92)	1.044	0.297		
	3-4 相手の意見をよく聴くことを大切にしている	4.31 (0.71)	4.27 (0.69)	0.543	0.587		
	3-5 授業後のコメントシートは必ず書く	4.54 (0.70)	4.61 (0.65)	-1.18	0.238		
	3-6 自分から進んで発言しようと思掛けている	3.19 (1.01)	3.14 (1.00)	0.567	0.571		
	3-7 周りの人の経歴談は積極的に参考にする	4.04 (0.79)	4.04 (0.72)	0.147	0.883		
	3-8 何か新しいことが学べるのではないかと受けて授業を受けている	4.30 (0.72)	4.08 (0.75)	3.294	0.001 *		
信頼感	4-1 授業後のコメントシートに、教員からフィードバックがあるとやる気が出る	4.13 (0.89)	3.99 (0.90)	1.717	0.086		
	4-2 授業で学んだことは役立ちそう	3.91 (0.84)	4.00 (0.80)	-1.242	0.215		
	4-3 授業で学んだことが身につくまで失敗しても学び続けようと思う	3.83 (0.81)	3.74 (0.86)	1.214	0.225		
	4-4 授業を受けることで自分自身でできることが少しずつ増えるように思える	3.72 (0.83)	3.74 (0.92)	-0.2	0.842		
	4-5 授業で自分に何が身につくのかをわかった上で受けている	3.89 (0.91)	3.60 (0.84)	2.799	0.005 *		
	4-6 授業を受けてよかったことを1つ以上挙げるができる	3.76 (0.90)	3.89 (0.86)	-1.732	0.084		
	4-7 教員と日常的なコミュニケーションがとれると思う	3.20 (1.02)	3.11 (0.99)	0.966	0.335		
	4-8 教員と学生がお互いに相手尊重の態度で接することができる	3.75 (0.80)	3.78 (0.80)	-0.455	0.649		
	4-9 教員から、授業の工夫や環境への配慮などよりよく学べるための支援を受けた	3.42 (0.87)	3.53 (0.89)	-1.491	0.137		

*P<0.05